



やまぐち 中山間地域振興ライブラリー



2023年3月
山口県総合企画部
中山間地域づくり推進課

	取組地域	取組内容	生活機能の確保	地域産業の振興	交流福祉活動の促進	拠点の整備	地域計画の検討	協働支援事業		活力創出事業
								専門家派遣	元気創出応援	
1	下関市吉田 (貞恒農産加工所)	農産物加工所の運営団体による年間供給体制づくりの取組		○	○	○				○
2	宇部市厚東 (厚東地区コミュニティ推進協議会)	地域みんなで子どもを育む取組 デジタル			○	○				○
3	山口市小鯖 (小鯖地域づくり協議会)	次期地域づくり計画策定に向けた自治会業務の負担感低減の取組					○	○		
4	山口市阿東嘉年 (阿東嘉年地域づくり協議会)	「嘉年クルミの里づくり」事業の取組		○	○				○	
5	山口市阿東地福 (NPO法人ほほえみの郷トイトイ)	移動販売やデジタル技術活用による高齢者支援の取組 デジタル	○		○	○				○
6	萩市旭(佐々並) (萩往還佐々並どうしてやろう会)	歴史的町並みを活かした地域の取組		○	○					○
7	萩市旭(佐々並) (ささラブ応援隊)	地域の小学校存続に向けた移住定住促進活動の取組 デジタル		○	○					○
8	萩須佐(弥富) (弥富むらおこし会)	休校校舎を活用して地域の特産品をPRする取組		○		○				○
9	萩市木間 (木間地区社会福祉協会)	人口100人の山間の集落が元気になる取組			○	○				○
10	防府市野島 (野島をアートで活性化する会)	SDGsにコミットした野島における海と陸の魅力発見の取組			○				○	
11	防府市野島 (野島白芋段々畑復活を目指す会)	野島白芋プロジェクトの取組		○	○				○	

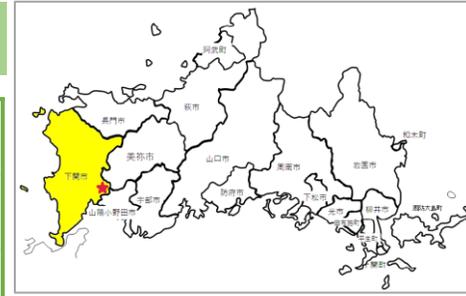
	取組地域	取組内容	生活機能の確保	地域産業の振興	交流福祉活動の促進	拠点の整備	地域計画の検討	協働支援事業		活力創出事業
								専門家派遣	元気創出応援	
12	防府市富海 (富海地域活性化協議会)	アプリを活用した情報伝達・共有の仕組みづくりの取組 デジタル	○		○					○
13	岩国市錦 (NPO法人ほつとにしき)	よさこい踊りとオオサンショウウオで地域を活性化する取組		○	○					○
14	岩国市錦ほか (やましろ地域特産品づくり協議会)	オオサンショウウオクッキーの販路拡大による地域経済活性化の取組		○	○					○
15	岩国市錦 (錦川観光協会)	学生の滞在型研究活動と連携した観光・経済の活性化の取組		○	○					○
16	岩国市錦(須川上沼田) (沼田ふれあい会)	神々の里沼田の地域資源を活かした活力創出の取組		○	○					○
17	岩国市美和下畑 (下畑地区ふるさとづくり推進協議会)	下畑地区特産品販売強化学業の取組		○	○					○
18	岩国市美和長谷 (長谷みどりの会)	紙漉き事業の取組		○	○					○
19	岩国市柱島 (島づくり推進協議会)	島民共同で行う地域の環境整備の取組	○	○	○					○
20	岩国市北河内 (北河内未来塾)	北河内地域の魅力発信の取組 デジタル			○	○				○
21	光市束荷 (束荷コミュニティ協議会)	空き家活用による拠点創出の取組		○	○					○
22	長門市宇津賀 (NPO法人ゆや棚田景観保存会)	棚田米を活用した商品開発の取組 デジタル		○	○					○

	取組地域	取組内容	生活機能の確保	地域産業の振興	交流福祉活動の促進	拠点の整備	地域計画の検討	働業支援		活力創出事業	
								協働事業	元氣創出応援		
								専門家派遣	元氣創出応援		
23	柳井市新庄 (新庄地区コミュニティ協議会)	夢プラン策定に向けた取組					○	○			
24	柳井市柳北 (柳北地区コミュニティ協議会)	夢プランの実現に向けた地域活動活性化の取組	○		○		○	○			○
25	柳井市阿月 (阿月地区コミュニティ協議会)	阿月地区「暮らし向上」プロジェクトの取組			○	○					○
26	柳井市伊陸 (伊陸地区コミュニティ協議会)	直売所の販売力強化と地域活動へのICT活用で地域活性化する取組	○	○	○	○					○
27	柳井市日積 (日積地区コミュニティ協議会)	情報発信の強化による交流・地域資源活用促進の取組			○	○					○
28	柳井市平郡東 (平郡東島おこし推進協議会)	島の魅力発信による交流促進の取組	○	○	○						○
29	周南市三丘 (“ほっと三丘”コミュニティ協議会)	地域文化記録のデジタルアーカイブ化に向けた取組				○		○			
30	周南市和田 (和田の里づくり推進協議会)	和田空き家再生プロジェクト事業の取組			○	○					○
31	周南市大津島 (大津島地区コミュニティ推進協議会)	大津島における生活支援サービスの創出に向けた取組	○		○						○
32	周南市三丘 (“ほっと三丘”コミュニティ協議会)	耕作放棄地や空き家の活用に向けた取組	○	○							○
33	山陽小野田市川上 (川上地区自治連合会)	川上地区将来計画(夢プラン)策定の取組					○	○			

	取組地域	取組内容	生活機能の確保	地域産業の振興	交流福祉活動の促進	拠点の整備	地域計画の検討	働業支援		活力創出事業
								協支事	元気創出応援	
34	山陽小野田市川上 (川上地域ICT活用検討協議会)	地域課題をICT活用によって解決する取組			○				○	
35	山陽小野田市川上 (川上地区自治連合会)	地域内での6次産業化促進の取組		○	○	○				○

デジタル

1 農産物加工所の運営団体による年間供給体制づくりの取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



実施主体	さだつね 貞恒農産加工所	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	よしだ 下関市吉田地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：1,284人、世帯数：655世帯、高齢化率：46.4%（令和4年11月末現在） ・下関市の北東に位置する田園地帯 ・第一次産業が中心で、特に「吉田なす」はブランド品として有名 		
取組の背景	<p>【背景】 平成30年度～令和元年度に補助事業を活用して「貞恒農産加工所」を整備。農家・非農家に関係なく、地域の女性たちの交流をもとに農産加工施設の運営事業体「里山工房よっちゃん」を設立した。吉田園芸組合員や(農)吉田ファーム等の地域の農家が栽培した旬の農産物を原料として年間を通して加工品を製造、近隣の直売所や観光施設等で販売できる体制を構築することで、「里山工房よっちゃん」の経営力強化と地域コミュニティの活性化を図る。</p>		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「里山工房よっちゃん」活動開始以来、製造販売を行っている簡易包装形式の「吉田なすからし漬け」の包装パッケージ改善等により土産物用新商品として展開 ・商品を統一的にPRするための「里山工房よっちゃん」のロゴマーク作成 ・なすからし漬けの販路開拓（カモンワープでの販売に向けた取組） ・作業環境整備による生産性の向上 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマーク完成 ・「吉田なすからし漬け」の新パッケージ商品完成 ・「やまぐち6次産業化・農商工連携商品」の認定 ・カモンワープ内の飲食店舗において、新パッケージ商品の販売開始 		
今後の展開	<p>【今後の展開】 運営事業体の経営力向上と地域農産物の利用率向上による生産農家の所得向上</p>		



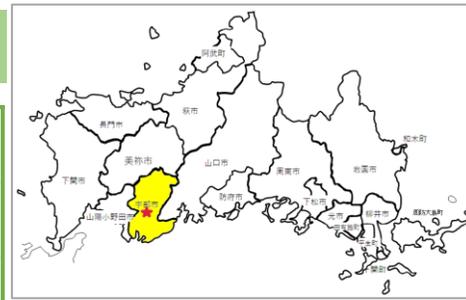
ポイント・工夫した点

- ・加工所の整備に向けて、運営事業体を新たに組織するため、地域から参加者を募り、農産加工検討チームを設置
- ・検討チームで商品開発の検討や研修を実施し、事業計画書を作成
- ・「里山工房よっちゃん」設立に当たり、検討チーム員が設立発起人となった。

活用事業

令和2年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

2 地域みんなで子どもを育む取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業

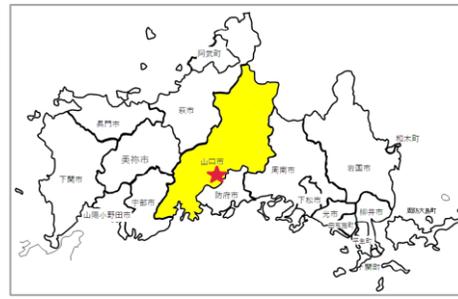
令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体	ことう 厚東地区コミュニティ推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	ことう 宇部市厚東地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：1,632人、世帯数：783世帯、高齢化率：45.6%（令和4年4月1日現在） ・宇部市の北部に位置する。 ・主な産業は農業で、集落営農法人や生産組合による野菜の栽培が盛んな地域 		
取組の背景	<p>【背景】 厚東地区は地域の繋がりが強く、「厚東っ子はみんなで育てる」という意思のもと、地域のNPO法人運営の学童保育や厚東見守り隊（平成15年2月結成）の活動など、小中学校と積極的に連携し、教育や子育てにも非常に熱心な地域である。 少子高齢化による人口減少に早くから着目し、高齢者や子どもの見守り活動を平成15年に始めた。</p>		
取組内容	<p>令和2年12月には地域計画を更新（「モントーンKOTO2021-2025」）、「暮らし続けたい」、「住んでよかった」という思いを次世代につなぎ、地域の活性化を図ることを目的に活動している。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区出身者（保育士、警察官、医師、デザイナーなど）による小学生、中学生へのキャリア教育の実施 ・地区の魅力や移住者の体験談などの動画を作成し、動画投稿サイトで公開 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出身者が故郷の良さを再認識する機会となり、講義を受けたこどもたちにも伝えることを期待している。 ・動画の作成作業を通じ、地域コミュニティと関わりの少なくなった世代と役員世代が対話、交流するきっかけとなった。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の充実を図りながら、学校と連携したキャリア教育を継続実施 ・動画などによる地域の魅力発信を継続し、移住者の増加や空き家対策につなげる。 ・若い世代が活動に参加しやすい体制や環境づくりを目指す。 		

ポイント・工夫した点

- ・キャリア教育実施に当たり、子どもが将来なりたい職業上位の職業や幅広い世代の講師を選定し、興味を持たせるようにした。
- ・動画作成、編集、投稿などを協議会内の人員で、ふれあいセンター内で行うことで、若い世代の参画を促し、役員世代との交流につなげた。

3 次期地域づくり計画策定に向けた自治会業務の負担感低減の取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討

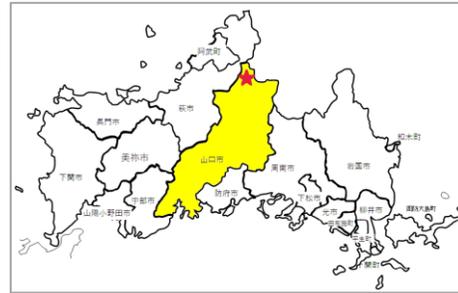


活用事業
令和3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（専門家派遣事業）

実施主体	おさば 小鯖地域づくり協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	おさば 山口市小鯖地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：4,005人、世帯数：1,934世帯、高齢化率：42.7%（令和5年2月1日現在） 防府市との市境に位置し、地域の中心を貫く国道262号線、国道2号線へ繋がる県道21号線、中国自動車道山口ICを擁す交通の要衝 正田山、鳴滝、萩往還等の名所旧跡が点在し、小鯖八幡宮では古来より続く代神楽舞が引き継がれている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期地域づくり計画策定に向けて、地域体制等の見直しを進めるために、令和2年度に中学生以上全住民アンケートを実施。 アンケート結果について、世代別報告会の際に意見交換会を実施したところ、「自治会や地域団体の運営や役員」に関する意見が最も多く、自治会運営の厳しさが浮き彫りになった。 見守りや助け合いの仕組みの最小単位である自治会の運営等の見直しを行い、持続可能な地域づくりにつなげていく必要が生じている。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言を受けながら、自治会の役や会議、行事を棚卸することで見える化による役員の負担や組織運営の課題の洗い出し。 モデルとして選定した5地区の自治会長業務の棚卸、専門家による分析 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <p>現在の自治会長は業務に取り組むことは自治会長の責務と考えておられ、現時点で業務の整理は難しいが、単位自治会の役割を洗い出すことができ、地域全体で体制や業務の見直しを行うべきとの機運が高まった。</p> <p>【今後の展開】</p> <p>負担感を抱く原因が役員の具体的な業務が見えない不安に起因するものであることから、今回棚卸を行った役割、業務の参考になる資料を作成し、各自治会長へ紹介</p>		

ポイント・工夫した点
全地域の自治会長にそれぞれの地域の課題を聞き、意見交換を行った。

4 「嘉年クルミの里づくり」事業の取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



- 活用事業
- 令和2、3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（元気生活圏元気創出応援事業）

実施主体

あとうかね
阿東嘉年地域づくり協議会

元気生活圏づくり推進方針

有・無

取組地域

あとうかね
山口市阿東嘉年地域

地域の夢プラン

有・無

地域の概要

- ・人口：333人、世帯数：201世帯、高齢化率：67.2%（令和5年2月1日現在）
- ・山口市の北部に位置し、農業が産業の中心
- ・水稻やトマトの栽培、畜産業が盛ん

取組の背景

【背景】

- ・地域に適した特産を調査、研究した結果、「リンゴの適地がクルミの適地」であることがわかった。
- ・景観形成がまちづくりの第一歩との考えのもと、地域が一体となってクルミの栽培を行い、「クルミの里づくり」に取り組んでいる。
- ・住民の健康増進や地域の景観保持、地域経済活性化に結び付けるため、平成30年度から耕作放棄地（約2ha）を活用して地域ぐるみでクルミ栽培を開始

取組内容

【取組内容】

- ・クルミの木225本を植付け（H30～R2）、木の管理、草刈り、防草シート張り作業をイベントとして実施、PRのために看板を設置
- ・地域の畜産農家の協力により堆肥を散布
- ・地域内で約280本の苗を配布し、各家庭で植え付け
- ・クルミを使った菓子や料理、酒づくりを研究

取組の成果

【成果】

- ・クルミの木が人の背丈以上に成長し、令和4年度に61個のクルミを初収穫
- ・イベントを開催することで「クルミ事業」の取組を地域内外に周知

今後の展開

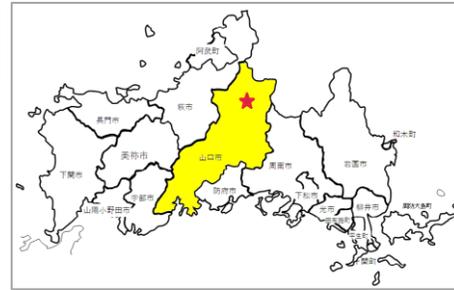
【今後の展開】

- ・植栽後の木の管理やクルミを使った商品開発に取り組む。
- ・作業従事者の確保が課題

ポイント・工夫した点

- ・地域内外へのクルミ事業の周知や交流人口の増加を目指してクルミイベントの開催に努めた。
- ・イベント開催時にクルミを使った菓子や料理を試食してもらい、交流を深めた。

5 移動販売やデジタル技術活用による高齢者支援の取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体

NPO法人ほほえみの郷トイトイ

元気生活圏づくり推進方針

有・無

取組地域

山口市阿東地福地域
あとうじふく

地域の夢プラン

有・無

地域の概要

- ・人口：1,044人、世帯数：595世帯、高齢化率：61.2%（令和5年2月1日現在）
- ・山口市の北東部に位置し、水稻を中心とした農業が盛んで、りんご、なし、肉用牛などの産地として有名

取組の背景

【背景】

- ・高齢化が進展し、免許返納をはじめ、移動手段を持たない高齢者が年々増加している。
- ・買い物だけでなく、見守りや困りごとの相談など地域住民が安心して生活するために移動販売のニーズが高まっている。
- ・新型コロナウイルスの影響等もあり、地域コミュニティの低下や高齢者の孤立化が課題となっている。

取組内容

【取組内容】

- ・移動販売車用冷蔵庫の大型化により、品揃えの充実を図り、買い物支援、生活支援を強化することにより高齢者の生活環境を維持
- ・移動販売を利用する高齢者宅に連絡を取りたい場合のスタッフへの通知機能等を備えた中学生の手作りのIoTデバイス（トイトイスイッチ）を設置し、デジタル技術を活用した高齢者の意思表示のしくみの有効性を検証

取組の成果

【成果】

- ・冷蔵商品の積載量を増やすことにより利用する高齢者のニーズに応えることができるようになり、利用者の満足度が向上。地域での暮らしに対する安心につながった。
- ・デジタル技術の活用により高齢者と地域の拠点がつながることで高齢者の孤立化を防止、地域とのつながりを持ち、安心して生活できることの実証となった。

今後の展開

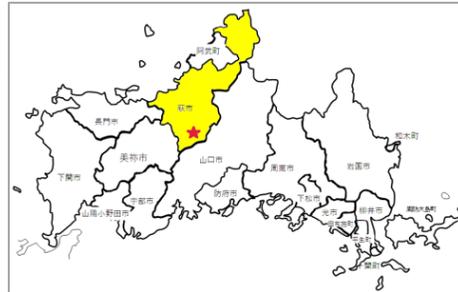
【今後の展開】

- ・生活支援サービスの構築等地域包括ケアにつなげる。
- ・今回実証に用いたIoTデバイスを応用し、子供の見守り、民生委員、児童委員の訪問負担の軽減など様々な分野での活用につなげる。

ポイント・工夫した点

- ・買い物支援だけでなく、見守りや困りごとの相談に対応するため、移動販売車1台にスタッフ2名を配置し、利用者との会話の時間を確保できるように工夫
- ・IoTデバイスの組み立てを中学生のICT教育の一環として実施し、地域内で高齢者を支える仕組みとなるよう工夫

6 歴史的町並みを活かした地域の取組



分野

- ① 生活機能の確保
- ② 地域産業の振興
- ③ 交流福祉活動の促進
- ④ 生活交通の確保
- ⑤ 拠点の整備
- ⑥ 地域計画の検討



活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体

ささなみ
萩往還佐々並どうしんてやろう会

元気生活圏づくり推進方針

有・無

取組地域

ささなみ
萩市旭地域（佐々並地区）

地域の夢プラン

有・無

地域の概要

- ・人口：543人、世帯数：268世帯、高齢化率：58.7%（令和4年9月末現在）
- ・萩市の南西部に位置しており、山口市からもアクセスがよい。
- ・佐々並市は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

取組の背景

【背景】

- ・佐々並地区は萩往還の宿場町としての町並みが残り、平成23年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。
- ・萩往還の旧街道を歩いて佐々並に観光に訪れる方も多いため、萩往還を活用したイベントの開催等により地域外からの来訪者を増やし、道の駅や重要伝統的建造物群保存地区に立ち寄る機会を増やす仕組みづくりが可能。

取組内容

【取組内容】

- ・佐々並宿発祥の礎である御茶屋復元に向けた調査研究
- ・地区の伝統工芸を活かした体験教室の開催
- ・伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを活かした小花のまちづくり、竹灯籠、水車の設置など、魅力的な交流イベントの開催
- ・佐々並小学校と連携した伝統的建造物群保存地区の定点ガイドの実施

取組の成果

【成果】

- ・地域が持つ魅力の地区内での共有と次世代への継承が図られた。
- ・小学校と連携した取組により、子供たちが地域のことを学習し、地域への愛着心と地域の魅力を伝える若い力の醸成につながった。
- ・コロナ禍により、イベントの開催に制限がかかったため、地域外へのPR効果が薄れた。

今後の展開

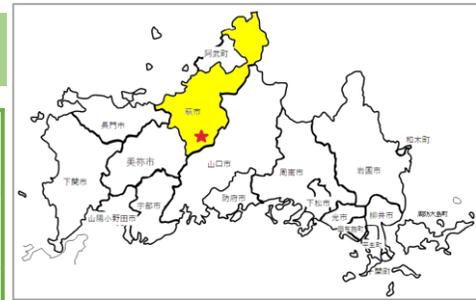
【今後の展開】

地区内の他団体と連携し、団体の法人化を視野に入れている。

ポイント・工夫した点

地区内の小学生親子も萩往還や伝統的建造物群などの地域学習を行い、地域の伝統・魅力の次世代への継承を行っている。

7 地域の小学校存続に向けた移住定住促進活動の取組



実施主体	ささラブ応援隊	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	萩市旭地域 <small>ささなみ</small> （佐々並地区）	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：543人、世帯数：268世帯、高齢化率：58.7%（令和4年9月末現在） 萩市の南西部に位置しており、山口市からもアクセスがよい。 佐々並市は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前児童がなく、この状況が続けば地域の小学校が廃校（休校）となってしまう状況にあった。 学校存続や地域の発展のため、地域住民や児童生徒の保護者が主体となって、行政や学校と協働し、子育て世代の移住者を増やす取組を企画、運営、実践する体制が構築された（令和2年 ささラブ応援隊設立）。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の移住検討者を対象に「小学校と住まいの見学会」のイベントを開催 移住者へ紹介する空き家を確保するため、地区長や住民団体の長で組織する団体を発足し、住民が空き家所有者へ活動を促す取組を開始 活動状況や小学校の様子などをSNSで情報発信 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組開始から1年半で4家族14人（うち小学生以下7人）の移住が実現し、令和7年度まで新入生を確保 小学校HPは保護者目線の記事を作成するとともに平日はほぼ毎日更新するなど丁寧な情報発信を行うことにより県外からも問合せ 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <p>地区の交流施設を改修し、その施設を拠点に住民と地域外の人が交流し、移住希望者との関係づくりに取り組む。</p>		

- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



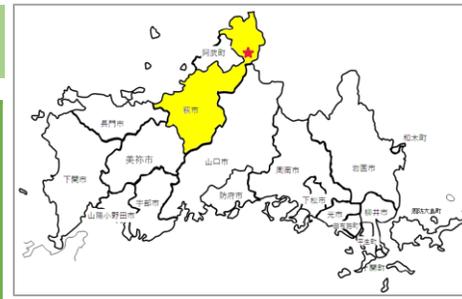
ポイント・工夫した点

- 移住された家族にも、ささラブ応援隊の活動に参加いただき、移住者の目線で、次に移住される方を支援いただいている。
- 地区の大工など空き家改修の専門知識を有するチームを設置し、空き家所有者の悩みに応え、アドバイスできる体制を整備

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

8 休校校舎を活用して地域の特産品をPRする取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体

やどみ
弥富むらおこし会

元気生活圏づくり推進方針

有・無

取組地域

すさ やどみ
萩市須佐地域（弥富地区）

地域の夢プラン

有・無

地域の概要

- ・人口：427人、世帯数：225世帯、高齢化率：64.2%（令和4年9月末現在）
- ・減反政策に伴い、平成8年頃からソバの作付けを開始
- ・地区内の少子化により、平成31年3月で小学校が休校

取組の背景

【背景】

- ・弥富地区では25年前からソバの作付けを行い、県内有数のソバの生産地であるが、地区内で地元産のそばを食べることができる飲食店がなく、食べることができるのはイベント時に限定されていた。
- ・そばのブランド化・認知度向上を図る上で拠点施設の創出が課題だった。

取組内容

【取組内容】

- ・休校となった小学校の校舎を活用し、そば店の整備と特産品のPR事業を行い、交流人口の増加を図った。
- ・提供するメニューの改定、広告宣伝、イベント、団体客対応の体制整備など、そばを中心とした特産品の消費拡大に向けた取組を行った。
- ・地域の人々の憩いの場を作るきっかけとしてモーニングの提供を開始し、そば粉で作られるガレットをメニューとした。

取組の成果

【成果】

- ・休校校舎での営業が話題となったことで、団体客も訪れるようになり、県内外へのPR効果と地域への経済効果を得た。
- ・校舎に人が出入りすることにより、学校校舎の老朽化を防ぐことができている。

今後の展開

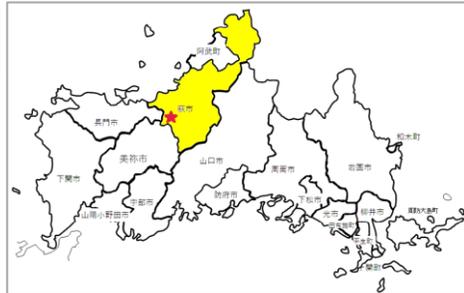
【今後の展開】

- ・事業を安定的に継続すること
- ・介護、福祉、交通サービスなどの地域課題への複合的な取組

ポイント・
工夫した点

- ・そば店の開設に当たって、地元説明会を開催して地域住民の理解を得ることに努め、初期運営資金の出資を募った。
- ・休校校舎の使用できそうな設備の活用、他の公共施設で不用となった備品を譲り受けるなど、初期投資ができるだけ安価になるよう努めた。

9 人口100人の山間の集落が元気になる取組



分野

- ① 生活機能の確保
- ② 地域産業の振興
- ③ 交流福祉活動の促進
- ④ 生活交通の確保
- ⑤ 拠点の整備
- ⑥ 地域計画の検討



活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体

こま
木間地区社会福祉協議会

元気生活圏づくり推進方針

有・無

取組地域

こま
萩市木間地区

地域の夢プラン

有・無

地域の概要

- ・人口：92人、世帯数：52世帯、高齢化率：72.8%（令和4年9月末現在）
- ・萩市の南西部に位置し、美祢市と隣接する。
- ・平成30年3月をもって木間小中学校は閉校し、14歳以下の年少人口は0人

取組の背景

【背景】

- ・地区内全体の少子高齢化が進み、市街地からも距離があるため、地区内で高齢者共助の仕組みづくりや地区が元気になるような取組を必要としていた。
- ・令和2年度に地域の夢プランを策定し、子どもや親子連れをターゲットにして木間を訪れる機会をつくることで、関係人口の創出を目指している。
- ・平成30年に廃校となった小中学校の校舎の活用が課題

取組内容

【取組内容】

- ・地域課題の整理、解決に向け、山口大学のコーディネーターを招いてワークショップを実施
- ・地区に子供がいないことから、保育園の遠足の誘致などにより地域外から子供を呼び込み、地元高齢者とも掘りなどの交流を通じて地域に活力が出る取組を実施
- ・廃校となった学校校舎を活動の拠点として整備し、イベントや料理教室などでの活用を進めた。

取組の成果

【成果】

- ・木間地区と定期交流を行う保育園との関係を築くことができた。
- ・ワークショップに参加いただいた山口大学医学部教授が関係人口となり、地区の行事や住民の健康相談でも関わりができた。
- ・廃校校舎に人が出入りすることで施設の保全が図られている。

今後の展開

【今後の展開】

地区住民だけでなく、関係人口が木間地区の良さを情報発信し、地区と関わりになる人の輪を広げる。

ポイント・工夫した点

高齢化率が70%を超える地区のため、高齢者の外出機会の確保、心身の健康増進に視点を置いて活動を行っている。

10 SDGsにコミットした野島における海と陸の魅力発見の取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業

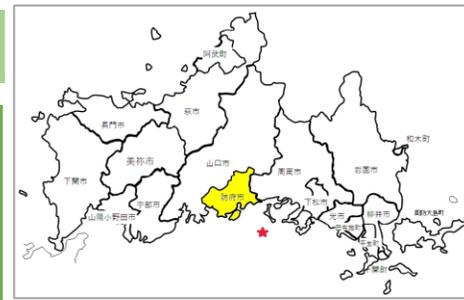
令和3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（元気生活圏元気創出応援事業）

実施主体	のしま 野島をアートで活性化する会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	のしま 防府市野島地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：72人、世帯数：51世帯、高齢化率：約72%（令和5年2月1日現在） ・防府市南東に位置しており、島全体が丘陵地で、北西部にわずかに平地が開け、その平地から斜面にかけて集落が形成されている。 ・地域の産業は漁業に特化しており、小型底引き漁業に取り組んでいる。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漂着ゴミ等が多いことが問題であるが、高齢化により清掃等が難しくなっている。 ・野島には、食べることができる野草や染料となる植物が豊富に植生している。 ・県立大学生がSDGsの「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさを守ろう」に関して地域の自然を生活に活かすための方法を学習するため、フィールドワークを実施 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防府市内の小学生と保護者を対象とした野島地域の魅力を発信するための取組 ・ビーチクリーン、海辺や山歩き、野島のハーブを使用した昼食会 ・地域資源（和ハーブ）を地域づくりに活かすことをテーマとした講演会の開催 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山歩きによるフィールドワークにより野島の産地生態系の保全に対する関心が高まった。 ・フィールドワークを通じて野島の自然環境に対する多角的な視点と野島の活性化につながる商品開発等のアイデアを得ることができた。 ・海洋環境を知るためのビーチクリーンでは、多くの漂着ゴミを回収し、高齢化により清掃等が難しい野島の環境保全に貢献した。 <p>【今後の展開】</p> <p>外部からのアイデアや来島者の力を借りて実施する環境整備や多世代交流、野島の自然を活かした商品開発等に取り組んでいく。</p>		

ポイント・工夫した点

- ・対象を小学生とすることで将来の交流人口の増加を目指した。
- ・低学年の児童でも興味を引くように講義の構成を工夫した。

11 野島白芋プロジェクトの取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業

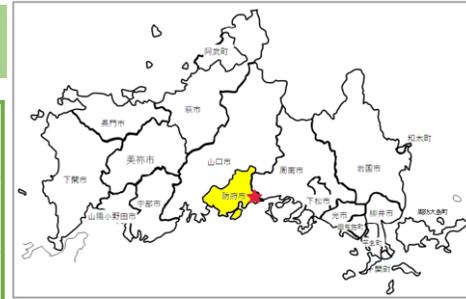
令和3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（元気生活圏元気創出応援事業）

実施主体	のしま 野島白芋段々畑復活を目指す会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	のしま 防府市野島地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：72人、世帯数：51世帯、高齢化率：約72%（令和5年2月1日現在） ・防府市南東に位置しており、島全体が丘陵地で、北西部にわずかに平地が開け、その平地から斜面にかけて集落が形成されている。 ・地域の産業は漁業に特化しており、小型底引き漁業に取り組んでいる。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつて、野島には段々畑が広がり、白いサツマイモが栽培されていたが、島民の高齢化、人口減少により、農業就業者が激減し、荒廃した状態の畑が増えてきている。 ・白いサツマイモに着目し、山口銀行と協働し、段々畑の再整備による景観の復活に取り組むとともに、栽培や加工により島の名物を作り出す活動を実施（野島白芋プロジェクト） <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒廃した休耕地を整備し、白いサツマイモのほか、タマネギやジャガイモ等を栽培 ・防府商工高等学校と連携し、いも掘りや開墾作業の体験の場を提供。併せて、野島散策等を行い、高校生に野島の魅力を発信 ・令和3年度収穫の白いサツマイモを防府商工高校に提供し、加工品やレシピの開発も連携して実施 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段々畑の整備により景観の復活が進んだ。 ・農作業、開墾作業体験の提供を通じて野島の魅力を発信 ・防府商工高校との連携により開発した白いサツマイモを活用した商品（防府市内菓子店のプリンに野島白いもプリンを期間限定で追加）を販売 <p>【今後の展開】</p> <p>荒廃している段々畑の所有者を特定し、提供の承諾を得て活動範囲を拡大していく。</p>		

ポイント・工夫した点

防府商工高校（農作業や加工品開発）や農業大学校（苗づくり）など地元の学生と連携することで、若年層の交流人口増加に努めた。

12 アプリを活用した情報伝達・共有の仕組みづくりの取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討





富海のLINE

 始めました



実施主体	とのみ 富海地域活性化協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	とのみ 防府市富海地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：1,791人、世帯数：964世帯、高齢化率：約53%（令和5年2月1日現在） ・防府市東部に位置している。 ・海や山に囲まれており、夏には海水浴場が開設され、海水浴客で賑わっている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の高齢化、人口減少が問題となっている。 ・地域の歴史、環境等の資源を活かした産業の活性化及び教育、福祉事業の充実により、いきいきと明るい住みよい町をつくり、若者の定住、他地域からの転入者を増やすことを目指している。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富海公式LINEアカウントを開設し、地域住民に対して迅速な情報伝達、共有を行うことができる体制を構築 ・地域住民へのアンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ≪項目≫ 交通・生活インフラ整備、医療、高齢者、独居老人への支援、人と人とのつながり、環境保全と地域資源の活用、定住促進・空き家対策、子育て・教育、活性化協議会と地域との連携、土地利用、地域でやってみたい活動、これならできる活動 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンにより地域の情報をタイムリーに共有することができるようになった。 ・山口大学によるアンケート結果の分析を通じて、地域住民のニーズの把握や分析ができた。 <p>【今後の展開】</p> <p>地域づくりのデータ化と次世代への継承を行っていく。</p>		

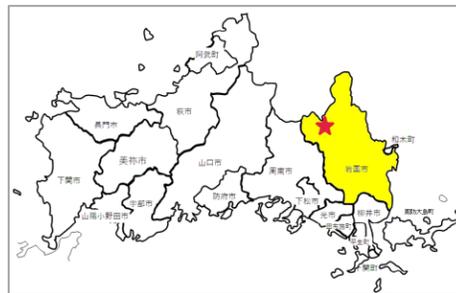
ポイント・工夫した点

富海公式LINEの取扱説明会を市役所や公民館等で行い、普及率を高めた。

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

13 よさこい踊りとオオサンショウウオで地域を活性化する取組



実施主体	NPO法人ほっとにしき	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	にしきまち 岩国市錦町地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：2,281人、世帯数：1,321世帯、高齢化率：59.8%（令和4年4月1日現在） 岩国市の北部に位置し、広島県や島根県と境を接しており、寂地峡や錦川などの自然環境に恵まれている。 主要産業は、こんにゃくやわさびの生産、加工、林業、観光業など 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成13年から「にしきふるさとまつり」と同時開催している「よっちょれ！よさこい」には県内外からファンが集い、毎年、にぎわっていることから、踊りで錦町の活性化を図る。 特別天然記念物のオオサンショウウオが宇佐川に生息しており、オオサンショウウオの保護を通じて環境保全の啓発、併せて地域活性化を図る。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰でも踊って元気になる「錦町よさこい総踊り」を製作し、多くの住民に踊ってもらうようにレクチャービデオを作成 オオサンショウウオへの興味と理解を深めてもらうため、かるたや触って学べる模型、生息環境を模したジオラマを作成、模型は町内各所に展示し、環境保全等の啓発活動を実施 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> よさこい総踊りは年齢を問わずに踊れるように製作したため、誰でもとつきやすく、様々な機会に踊ってもらうことで元気を発信 オオサンショウウオの生態を知ることによって環境保全活動への理解が進んだ。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よさこい」への新たな参加者の確保 オオサンショウウオを活用した地域の活性化 		



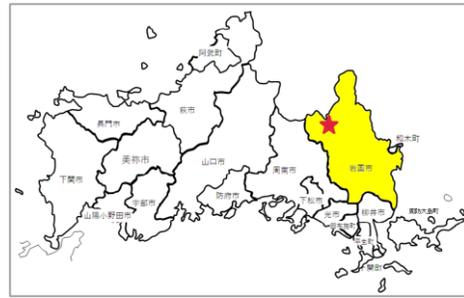
- 分野
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



ポイント・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> よさこいグループ（錦よさこい連蛸）との連携 地域内の各所でオオサンショウウオの模型を展示し、多くの人々の目に触れるようにした。
------------	--

活用事業
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

14 オオサンショウウオクッキーの販路拡大による地域経済活性化の取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



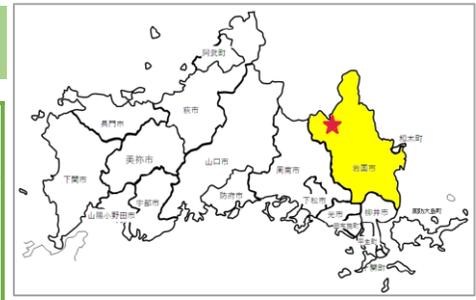
活用事業
令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体	やましろ地域特産品づくり協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	にしきまち ほんごうまち みかわまち みわまち 岩国市錦町地域（関連：本郷町、美川町、美和町）	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：7,336人、世帯数：4,120世帯、高齢化率：56.3%（令和4年4月1日現在） 岩国市北部に位置しており、関連の地域も含め、全域が中山間地域 ※山代地域：本郷町、錦町、美川町、美和町 錦川とその支流の宇佐川は清流として有名 		
取組の背景	<p>【背景】 山代地域には国の特別天然記念物のオオサンショウウオが生息し、県内最長の清流である錦川や山口県最高峰の寂地山など地域外へPRできる地域資源がある。これらを積極的に地域外にPRし、観光客の増加や地域経済の活性化を図るため、オリジナルブランド商品の開発に向けて、「やましろ地域特産品づくり協議会」を立ち上げ、令和2年度にオオサンショウウオをモチーフにしたクッキーを開発、商品化した。</p>		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞、ラジオ、SNS等を活用した商品PRの実施 商工会のイベントにおける販売促進活動 売り場での商品PRのため、販売店舗用の商品サンプル、のぼりを作成 クッキーが割れにくい包装など商品パッケージの改善 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やましろブランド※」への登録認定 ※山代で作られた製品の中から、特に味、コンセプト、独自性に優れたものとして認定されたもの 新聞やラジオなどのメディア、SNS等を活用した情報発信により広範囲に周知できた。 来訪者だけでなく、地域住民にも地元の土産物として認められた。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】 消費者の声を聞き、商品改善することでリピーターの確保、事業の継続的な発展へつなげる。</p>		

ポイント・工夫した点

- 地域イベントへ記念品等として贈呈を行い、地域住民へPRし、地元の土産物としての活用に繋がった。
- メディアの活用やイベント出店により商品と地域のPRを効率よく、広範囲に行った。

15 学生の滞在型研究活動と連携した観光・経済の活性化の取組



実施主体	にしきがわ 錦川観光協会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	にしきまち 岩国市錦町地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- ・人口：2,281人、世帯数：1,321世帯、高齢化率：59.8%（令和4年4月1日現在）
- ・岩国市の北部に位置し、広島県や島根県と境を接しており、寂地峡や錦川などの自然環境に恵まれている。
- ・主要産業は、こんにゃくやわさびの生産、加工、林業、観光業など

取組の背景

【背景】
岩国市錦町は、自然に恵まれた観光資源を有するものの、高齢化や人口減少、若年層の地域外への流出等により地域の活力が衰退している。
将来の地域の維持も懸念されるため、新たな観光資源の掘り起こしによる来訪者の増加や産業の育成が必要な状況。

取組内容

【取組内容】

- ・観光や建築、地形、地域活性化等を研究する大学生を受け入れ、フィールドワーク等を支援（観光資源としての棚田や地形、街並みなどの調査研究、棚田の再生、整備、古民家の補修などの実習、調査研究）
- ・調査研究の結果を踏まえた地域資源の活用方法を大学生から地域へ提案
- ・令和2年度の調査研究結果から出されたアイデアで実施可能なものについて、観光資源としての活用可能性を検証
（移動式フォトフレームの設置による記念撮影スポットの創出）



取組の成果

- ・地元住民の目線では想定できなかった地域資源の活用法が提案された。
- ・観光や地域活性化につながるヒントを得ることができた。

今後の展開

【今後の展開】
提案のうち実施可能なものを新たな観光資源として掘り起こし、活用を検討

- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



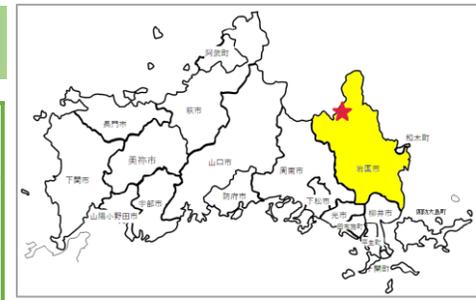
ポイント・工夫した点

- ・学生を受け入れることにより、若い視点での提案となった。
- ・1年目に出されたアイデアは実際の活用場面で制約事項が多いものが目立ったことから、ワーキングの際に地元住民の意見等を取り入れ、実際に活用可能な提案内容となるよう工夫した。

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

16 神々の里沼田の地域資源を活かした活力創出の取組



実施主体	めだ 沼田ふれあい会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	にしきまち すがわうえめだ 岩国市錦町地域（須川上沼田）	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：14人、世帯数：11世帯、高齢化率：85.7%（令和4年4月1日現在） 地形を利用し、棚田で米づくりを行っている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、高齢化が進む中、集落の環境維持が困難になっており、地域内での共同作業等を通じて交流機会も設けていくことが必要な状況。 将来的な集落の存続、公演機会が減少している「上沼田神楽」（岩国市指定無形民俗文化財）の継承に寄与するため、営農の省力化、効率化を図りつつ、集落資源の発掘、発信に取り組み、人々が交流できる環境を整えることが必要。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地の解消に向け、草刈りや水路管理の省力化を図り、限られた人数で管理可能な体制を整備 集落資源の洗い出し、看板の設置、棚田での参加型の農業体験の実施など集落への来訪者増加に向けた取組 上沼田神楽の周知、継承に向けて、公演の様子を動画配信 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 棚田を耕作するに当たって、農業体験として地域外の人材の参加を募ることで、地域の負担軽減を図りつつ、耕作放棄地になりかけていた棚田の復活、関係人口の創出につながった。 体験型プログラムと併せ、SNS等を活用して地域情報を発信する体制が整い、中山間地域における各種取組への理解増進に寄与した。 <p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 棚田を活用した交流を進め、耕作放棄地の解消を目指す。 リピーターの確保と新規参加者の掘り起こしを進める。 		

- 分野
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



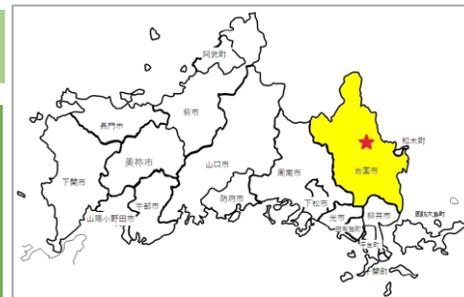
ポイント・工夫した点

- 地域住民の中には集落への来訪者の増加に不安を感じている人もいるため、防犯カメラの設置等の対策を行った。
- 体験イベントだけでなく、来訪者に神楽の演技を実際に見てもらった。

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

17 下畑地区特産品販売強化事業の取組



実施主体	しもはた 下畑地区ふるさとづくり推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	みわまちしもはた 岩国市美和町下畑地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：143人、世帯数：91世帯、高齢化率：69.2%（令和4年11月1日現在） ・5つの自治会で構成されており、高齢化が進んでいる。 ・令和2年度地域間交流拠点「下畑交流館」が完成し、地元住民による「せせらぎ朝市」の運営開始 ・令和3年度に地元野菜を朝食として提供する「キッチンせせらぎ」をオープン 		
取組の背景	<p>【背景】 「下畑交流館」の建設に際し、この施設内に朝市コーナーが設けられることとなり、この朝市を充実させ、農産物の需要拡大や農業者の生産意欲向上につなげることを目指しており、更に、新規事業として飲食事業を開始する予定があった。</p>		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「せせらぎ朝市」オープンに向けた体制整備（案内看板設置や店舗内のレイアウト等） ・朝市において、餅つき大会やしいたけの駒打ち体験などのイベントを実施し、集客につなげている。 ・メニュー開発や販売体制の検討等を行い、朝市来訪者等への朝食提供する「キッチンせせらぎ」をオープンした。 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝市において、地元農産物等の販売が可能になり、地域農産物の需要拡大、生産意欲の向上、耕作放棄地の発生防止につながった。 ・地域外からの集客が増え、関係人口が増加した。 ・交流館が地域コミュニティの場となり、利用率の向上と地域活性化に寄与した。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝市及びキッチンせせらぎの運営継続 ・定期的なイベント開催により、更なる集客を目指し、地域農産物の需要拡大や関係人口の増加、地域活性化を促進 		

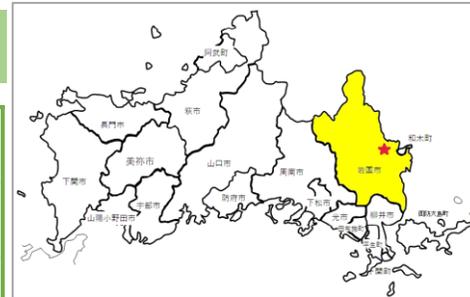
- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



ポイント・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・集客のため、宣伝効果の高い案内看板等を設置した。 ・地域のファンを増やすことによる関係人口の増加を目的に新規事業として飲食事業への展開を図った。
------------	--

活用事業
令和元、2年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

18 紙漉き事業の取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



実施主体	ながたに 長谷みどりの会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	みわまちながたに 岩国市美和町長谷地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：147人、世帯数：83世帯、高齢化率：63.2%（令和4年11月1日現在） ・4つの自治会で構成されており、高齢化が進んでいる。 ・平成27年度より美和中学校と協働で手すき和紙の卒業証書づくりを行っている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】 山代地区では、古くから楮や三椏を使った和紙づくりが盛んに行われていたが、近年は途絶えてしまっていた。 平成22年に美和中学校の生徒が長谷地域に三椏の苗木を植え、散策道を整備する取組を行い、その三椏が和紙の原料として使えるようになるまで生育したことを機に三椏の植樹から紙漉きまでの全工程を美和中学校と協働して行い、卒業証書を作成する取組を行っている。 この取組において、設備の関係から一部の行程を地域外で行う必要があるため、地元住民の負担となっており、事業の継続、拡大に懸念があった。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内で全工程を行うことができるようにし、和紙づくりの伝統の継承、和紙づくりによる地域内外の交流を促進 ・体験の受け入れ拡充に向けて、卒業証書以外の製品も作成できるように体制を整備 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じた和紙づくりの伝統の継承 ・地域内外との交流促進による地域活性化 ・和紙づくり体験の受け入れ拡充の体制が整った。 <p>【今後の展開】 体験の受け入れ拡充を図り、更なる地域外からの集客、交流人口の増加、交流館の利用率向上を目指す。</p>		



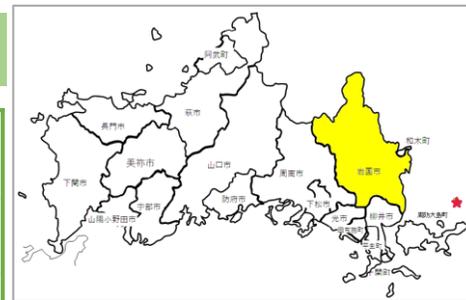
ポイント・工夫した点

和紙づくりの専用機材は高価であるため、家電等で代用することで地域内で全工程を完結できる体制とした。

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

19 島民共同で行う地域の環境整備の取組



実施主体	島づくり推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	はしらじま 岩国市柱島地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：148人、世帯数：117世帯、高齢化率：82%（令和4年4月1日現在） 岩国市の南東部に位置している。 漁業が盛んな地域 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少・高齢化の進行により島民による島内の環境維持が困難になりつつある。 今後も島の生活機能を維持し、住みよい環境を整備するため、島民自らの課題解決を目指しつつ、島の景観を観光資源として活用し、島外からの観光客や移住定住希望者の増加へつなげることが必要。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会の体制や今後の活動を検討する話し合い活動を実施 島の環境整備実施箇所を島づくり推進協議会で検討し、竹林、海岸道路及び一周農道、耕作放棄地等の島内の環境整備を協議会メンバーで実施する体制を整備 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで各自で対応していた環境整備について、島づくり推進協議会を主体として実施する体制とすることにより、機械の導入などで高齢化した作業者の負担軽減につながり、継続実施の体制が整った。 島内の主要道路の環境美化により、景観の維持や防災環境の整備、車両等通行時の安全面の向上につながった。 耕作放棄地の整備により、荒廃が著しかった農地が作付け可能な状態に回復した。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <p>構築した体制を維持するため、現有メンバーより若い世代の新たな人材の育成</p>		

- 分野
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



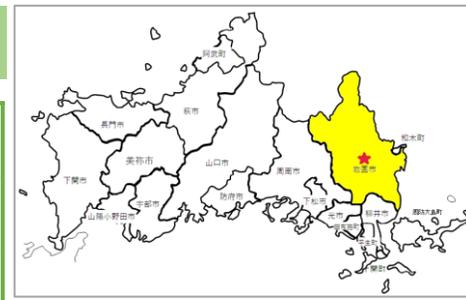
ポイント・工夫した点

- 地域における話し合い活動によって課題を共有し、共同作業を通じて島民間の交流の機会を設けた。
- 島民が主体的に話し合いや作業を実施、課題解決に取り組むことで、持続可能な地域コミュニティの形成を推進

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

20 北河内地域の魅力発信の取組



実施主体	きたごうち 北河内未来塾	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	きたごうち 岩国市北河内地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：1,100人、世帯数：588世帯、高齢化率：51.2%（令和4年11月1日現在） 錦川中流沿いで、周りを山に囲まれている。 地域産業の中心は、古くから農業と林業 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過疎、高齢化の進行による農林業等の地域生産活動の停滞等が、集落機能の維持、存続や公益的機能の維持、保全を困難にしつつある。 人口維持のため、地域住民が主体となった移住の取組や地域振興対策が必要と考えた。 令和元年には、人口を維持し、20年後の子や孫に残す北河内を考え、できることをやっていくことを目的に北河内未来塾が設立された。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北河内地域の四季の魅力を伝える空撮映像を作成し、HPで発信 通学路を主とした地域内の清掃、活動内容を周知するため、地域住民へ「未来塾だより」を発行 地域の課題や魅力を発見するため、地域内の全世帯を対象としたアンケートを実施 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 錦川清流線の動画の再生回数が思った以上に多く、手ごたえを感じた。 通学路の清掃により通学の安全性が確保され、父兄や学校と協働することで世代間交流が広がった。 広報誌を発行することで、北河内未来塾の活動を地域住民に周知できた。 アンケートの実施により地域住民との交流が生まれ、北河内未来塾の活動を知ってもらう機会となった。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路の清掃について、定期的に決まった日に行うなど活動内容を検討し、継続する。 地域住民へのアンケート結果を踏まえた北河内未来塾の活動の展開 		

- 分野
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



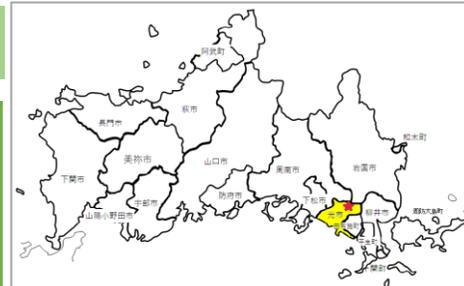
ポイント・工夫した点

- 北河内地域の豊かな自然の魅力を知らってもらうため、季節ごとの空撮映像を作成した。
- 地域内の全世帯へアンケート調査を行うに当たり、協議会を立ち上げ、地域の各団体を含めてアンケート内容を話し合っ実施した。

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

21 空き家活用による拠点創出の取組



実施主体	つかり 束荷コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	つかり 光市束荷地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- ・人口：659人、世帯数：311世帯、高齢化率：48.7%（令和4年12月末現在）
- ・光市の内陸部北部に位置している。
- ・農業が産業の中心で、主に稲作とイチゴの生産が盛ん

取組の背景

【背景】

- ・地域内に空き家が増加し、その活用策を検討する必要があった。
- ・これらの活用策として、地域の交流や産業活動等の拠点の創出等を検討
- ・交流人口の増加を図り、地域の魅力向上を図りたいと考えていた。

取組内容

【取組内容】

- ・交流施設としての活用、イベント等で活用できるよう空き家の清掃、修繕を実施
- ・増加傾向にある空き家を地域資源として捉え、空き家に隣接する農地での都市部の幼稚園児の農業体験、空き家でのランタン作成ワークショップなど整備した空き家を活用し、イベントを実施

取組の成果

【成果】

- ・空き家の清掃、修繕により交流拠点として整備することができたが、住民の空き家活用の意識はまだ低い。
- ・イベントの実施により都市部や地域外の住民との新たな「つながり」を創出することができた。

今後の展開

【今後の展開】

- ・今回の修繕の取組やイベント等を通じ、地域住民の空き家活用に対する意識向上を目指し、移住者向け住宅等に活用できる空き家の掘り起こしを進める。
- ・イベントによりできた「つながり」を活用するなどにより、地域を知ってもらう機会を創出する。

ポイント・工夫した点

- ・定期的に役員等が集まり、活動結果の振り返りや改善策の検討を行い、課題等の共有を図った。
- ・空き家の清掃、修繕を行うに当たり、事前に役員等でアイデアを持ち寄り、整備後の利用方法等を十分に検討した上で修繕等に取り組むことで方向性を共有
- ・屋外を中心としたイベントの実施や人数を減らすなど、コロナ禍でも感染症対策を行うことで実施可能な内容とした。

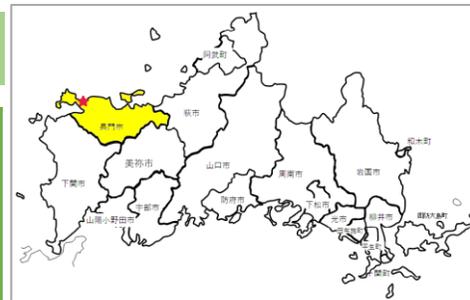
- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業

令和2年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

22 棚田米を活用した商品開発の取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討

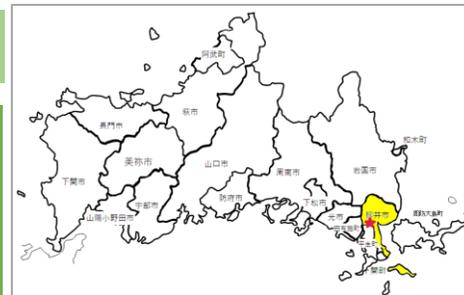


- 活用事業
- 令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体	NPO法人ゆや棚田景観保存会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	うつが 長門市宇津賀地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：624人、世帯数：339世帯、高齢化率：67.2%（令和5年1月31日現在） 長門市の北西部に位置し、北側は日本海、南側は油谷湾に面している。 一次産業が地域の主要産業で、棚田で作られる米をはじめとした農業や「長州ながと和牛」などの畜産業、日本海の豊富な水産資源を背景とした漁業が中心となっている。 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 棚田百選にも指定されている宇津賀地区の棚田は、所有者の高齢化により耕作放棄地が広がりつつあり、26,000枚あった棚田は5,000枚にまで減少 棚田の耕作放棄地が拡大すると地域の景観が一変することもあり、棚田保全のために新たな担い手や新たな手法を検討する必要が生じた。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 棚田米を原料とした米粉の安定生産、安定供給できる体制づくり 耕作放棄地にハーブ等の花を植える「花田観光地」化 棚田米の米粉の商品パッケージや規格のブラッシュアップ 乳幼児の離乳食としての米粉活用の提案とそのPR活動 HPをリニューアルし、棚田米の商品等のオンライン販売システムを導入 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品価値が低い小米を米粉に加工することにより、「棚田ビスコッティ」などの加工原料として安定した販路を確保し、小米の商品価値が向上した。 耕作放棄地だった棚田の景観が改善され、「棚田の花段」として観光客が増加し、棚田全体の交流人口が増加した。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米粉やハーブ等を使った加工食品を開発し、カフェや食堂、雑貨店など多種類の事業展開につなげ、新規ビジネスの立ち上げを検討 HPによる情報発信を効果的に活用し、移住、定住による人口増加や新規就農者の確保など地域の活力向上につなげる。 		

ポイント・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 棚田米の副産物である小米を米粉に加工することで、付加価値を付けた。 再生した棚田の新たな活用策としてハーブを栽培 栽培に当たり、農薬や肥料を使用しないこととした。 棚田広場（棚田の花段）に単管キューブやハンモックなどを設置し、フォトジェニックの演出を行った。
------------	--

23 夢プラン策定に向けた取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討

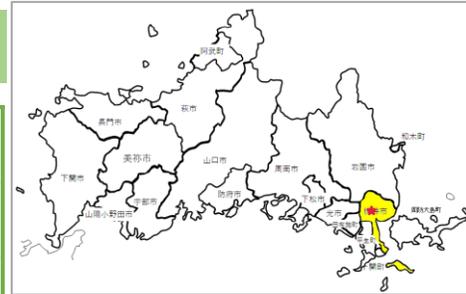


活用事業
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（専門家派遣事業）

実施主体	しんじょう 新庄地区コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	しんじょう 柳井市新庄地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：4,284人、世帯数：2,065世帯、高齢化率：37.5%（令和4年9月30日現在） ・41集落のうち、小規模・高齢化集落が1集落 ・中心市街地に隣接する地区で、市民が集う交流施設等がある。 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民間の交流が活発ではなく、連帯意識が低いため、次世代を担う世代との関係が希薄で、後継者世代の人材育成が不足している。 ・協議会役員であっても構成団体の活動内容や実態を把握できておらず、地域課題の洗い出しなども困難な状況であり、夢プラン策定に向けた活動を通じて住民間の関係性の構築を図る必要がある。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家による人口データ等からの地域の現状分析、他地域の事例を交えた夢プラン策定に向けた活動の取り組み方法の指導 ・新庄地区夢プラン策定に向けた住民アンケートの実施方法検討及び実施、結果の分析と共有 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢プラン策定に向けた全体スケジュールの決定、協議会の所属団体等への個別ヒアリングを行うことができた。 ・地域課題を整理するためのプロセスやアンケートの目的、実施方法を整理することができ、地域で方針が共有された。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】 夢プランの策定</p>		

ポイント・工夫した点
住民間の関係性が希薄であるという地域の現状を踏まえ、協議会役員がそれぞれの所属団体の個別ヒアリングを行うことから取組を開始した。

24 夢プランの実現に向けた地域活動活性化の取組



実施主体	りゅうほく 柳北地区コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	りゅうほく 柳井市柳北地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：1,833人、世帯数：880世帯、高齢化率：38.6%（令和4年3月31日現在） 柳井市の中心市街地から北に約3kmの山麓に位置している。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会や各種コミュニティ団体間の交流を図るため、平成25年3月に柳北地区コミュニティ協議会が設立され、地域活動の中心的な機能を果たしてきた。 近年、高齢化により担い手不足の自治会が解散するなど地域の基礎となる地縁的基盤が揺らぐ事態が発生している。 平成30年度に実施したアンケートでは、地域活動に対する認知度や参加者割合が極めて低いとの結果となり、地域活力の衰退、地域のつながりの希薄化等の問題が明らかとなった。 これらのことを踏まえ、地域の有志による意見交換会を経て、令和2年3月に地域の夢プランを策定 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夢プラン推進会議開催に向けての準備会議」への専門家の招へい 地域活動の年間計画や夢プランの将来目標を掲載した回覧板の作成、ロゴデザインの製作、チラシ等への掲載による地域内連携やコミュニティ活動促進 地域内の通学路周辺、荒廃が著しい畦道、耕作放棄地周辺部等の環境整備活動による生活機能の確保 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 回覧板によって幅広く周知することで地域活動に新規で参加する人が増え、地域活動に対する理解が広まった。 耕作放棄や管理者不在などの理由により日常生活に影響が出ていた荒廃地の解消が図られた。 <p>【今後の展開】</p> <p>夢プランを推進するため、地域内の担い手人材発掘など共同体制を構築する。</p>		

- 分野
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



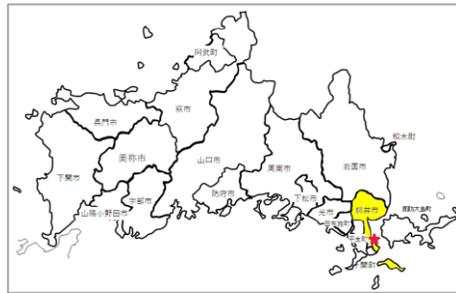
ポイント・工夫した点

- 地域活動等について多くの住民の理解を得るため、回覧板による周知を行った。
- 環境整備活動実施に当たり、事前に草刈機等駆動式工具の操作方法や安全利用の講習会を実施した。

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（専門家派遣事業）
やまぐち元気生活圏活力創出事業

25 阿月地区「くらし向上」プロジェクトの取組



実施主体	あつき 阿月地区コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	あつき 柳井市阿月地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：628人、世帯数：352世帯、高齢化率：56.5%（令和4年4月1日現在） 柳井市の南部に位置している。 古くから水産業や農業が盛んで、みかんの産地として有名 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少や高齢化により、生活機能の低下が著しく進むとともに、農業分野においては従事者が減少傾向にあり、特産である柑橘類生産の人手の確保が困難な状況 柑橘(せとみ)を利用した特産品づくりを進めているが生産量が少なく、販路開拓を行う上でも生産量の増加が課題 高齢者世帯が増加し、生活機能の維持に不安を感じる住民が増加。また、高齢化により地域活動への参加、協力者の減少など地域活動維持に対する懸念がある。 協議会では、地域の将来設計図として、令和元年11月に夢プランを策定し、地域一丸となって課題に取り組む計画を定めた。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> せとみを活用した加工品の試作を行い、日曜朝市等で試験販売を実施 高齢者いきいきサロンを活用し、高齢者の居場所づくりや見守り体制を強化 住民が主体となって地区山林の間伐を行い、間伐材を利用してベンチ、テーブルを作成、住民の集いの場づくりを行った。 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民と農業従事者が協力して柑橘に携わることで、特産品への関心が高まり、将来のブランド化に向けた機運の醸成や需要拡大につながった。 住民の地域活動への参加意欲が高まり、幅広い年齢層が協力して活動することで、安心して暮らしていける地域の基盤の整備が図られた。 <p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、柑橘類の生産拡大に取り組む。 高齢者の居場所づくりや見守り体制の強化を目指す。 		

- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



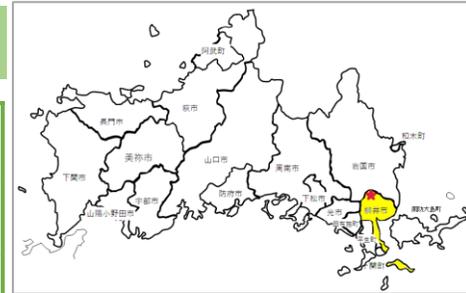
ポイント・工夫した点

- ・ 特産品振興における生産者（農業従事者）との連携
- ・ ベンチやテーブルの製作を住民参加で行うことで住民同士のつながりの意識醸成や若い世代の参画を促進

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

26 直売所の販売力強化と地域活動へのICT活用で地域活性化する取組



実施主体	いかち 伊陸地区コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	いかち 柳井市伊陸地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- ・人口：1,474人、世帯数：775世帯、高齢化率：51.3%（令和4年3月31日現在）
- ・22集落のうち、小規模、高齢化集落が2集落
- ・柳井市の北部に位置し、柳井市最高峰の氷室岳（標高562m）の麓に広がる、のどかな田園地帯
- ・稲作を中心とした農業が盛んで、伊陸米は県内でも高い評価を得ており、人気の特産品

取組の背景

取組内容

【背景】

- ・農業従事者の減少や高齢化等に伴い、伊陸米のブランド力や販売力の低下が著しい。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により地域活動の停滞、高齢者世帯の孤立化、路線バスの減便に伴う買い物弱者の発生等多様な地域課題が発生している。

【取組内容】

- ・地域内の農産物直売所の販売力強化に向けた環境整備（開店時間の統一、目玉商品の開発など）
- ・SNSを活用した地域内の情報伝達体制の構築
- ・伝統行事関係のデジタルデータ化、空き家情報のクラウドによる共有など地域活動へのICT活用

取組の成果

今後の展開

【成果】

- ・地域内の直売所の環境整備を行うことで、全体の顧客や売上が増加し、運営維持、向上につながった。
- ・地域の若年層を中心に地域運営機能の維持、向上を目的としたワーキンググループ会議を行うことで、地域活動におけるICT活用が進んだ。

【今後の展開】

- ・地区住民及び農業従事者が一丸となった相乗効果の高い、農産物のPR活動を展開する。
- ・SNS等の活用により、緊急時の連絡体制構築、地域活動の活性化、円滑化を図る。
- ・ICT分野に先見性を有する人材や地域の若年層の参画を促す。

- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



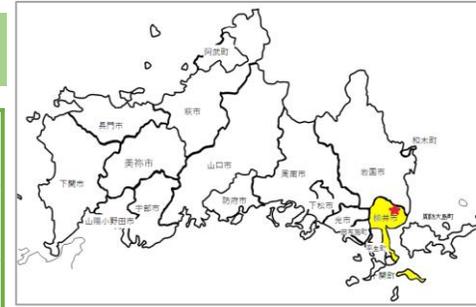
ポイント・工夫した点

- ・地域内の直売所すべての開店時間を年間を通じて統一するなど、足並みをそろえることで全体の顧客拡大等につなげた。
- ・若年層を中心としたワーキンググループを設置することで若者の地域活動への参画を促した。

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

27 情報発信の強化による交流・地域資源活用促進の取組



実施主体	ひづみ 日積地区コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	ひづみ 柳井市日積地区	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- 人口：1,281人、世帯数：725世帯、高齢化率：56.6%（令和4年3月31日現在）
- 33集落のうち、小規模、高齢化集落が13集落
- 主な産業は農業で、米を中心にブドウ、露地野菜、施設野菜などの生産が行われている。

取組の背景

取組内容

【背景】

- 名所・史跡、伝統文化など様々な魅力的な資源を有する一方、人口減少、高齢化の進行により生活機能の低下が著しい。
- 協議会において、平成21年2月に夢プランを策定し、都市農村交流施設「ふれあいどころ437」を拠点とし、産業振興を兼ねた地域外からの来訪者との交流活性化を図る取組を行っている。
- これらの活動は農産加工品の販売増加や新規就農、移住等で一定の成果を上げているが、今後の地域の発展に向けては、都市農山村交流及び地域資源活用を柱とした活動をより一層進めることが課題となっている。

【取組内容】

- 伝統文化をPRする看板の設置
- 地域の行事や生活風景など古い写真や資料のデジタルアーカイブを作成し、HPで公開
- 住民参加による史跡巡りの動画、特産品紹介や移住者、地元出身者の話など地域をPRする動画を作成し、動画投稿サイトや直売施設で公開
- 協議会のLINE公式アカウントを開設し、祭りなどの地域情報を発信
- LINEグループを活用し、地域内の各団体との情報共有体制を構築

取組の成果

今後の展開

【成果】

- 看板製作の過程で地域内の新たな人材（芸術家、書道家）発掘の機会となった。
- 地域資源の重要性を再認識する機会になり、その資源を活用した取組の更なる展開や交流活性化の取組に対する地区住民の意識向上につながった。

【今後の展開】

地域資源を活用した取組の継続、新たな担い手の確保

ポイント・工夫した点

- 役割分担を明確にし、進捗状況の確認のため、定期的に会合を行った。
- デジタルアーカイブ用資料の集約、整理を効率的に行うため、資料データの保管場所としてNASを設置し、オンライン上からアクセス可能な環境を整備した。

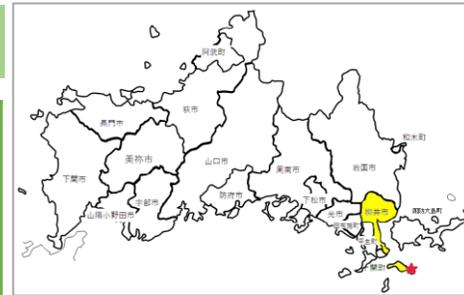
- 分野**
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



活用事業

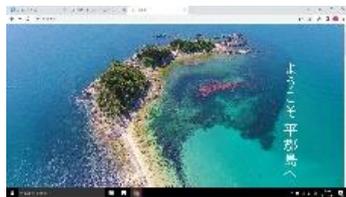
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

28 島の魅力発信による交流促進の取組



実施主体	へいぐんひがし 平郡東島おこし推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	へいぐんひがし 柳井市平郡東地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：159人、世帯数：110世帯、高齢化率：72.3%（令和4年3月31日現在） 15集落すべてが小規模、高齢化集落 瀬戸内海の温暖な気候により、温州ミカンの栽培が盛んで、耕作地の約半分を柑橘類が占めている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化率が非常に高く、未成年者はわずか2人で、少子高齢化が顕著であり、平郡島全体でも、人口が著しく減少し、歯止めが利かない状況 観光目的の来島者も少なく、柳井市民でも平郡島を訪れたことがない人が多いなど、認知度も低い。 近年は釣り客も減少傾向にあり、島の唯一の生活航路である平郡航路の利用者も年々減少し、この状況が続けば航路の維持も危ぶまれる。 一方で、美しい景色や豊富な海の幸などの環境に恵まれ、マリレジャーや登山も楽しむことができるが、島の魅力はあまり知られていない。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 島内外の若い独身男女を対象とした婚活イベントの開催 公式HPを開設し、島の暮らし、施設、出来事、今ある姿などを情報発信。併せて、動画配信サイトにおいて、映像の配信も行い、平郡島の魅力をPR 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント開催により定住人口及び交流人口が増加するとともに、イベントが盛況であったことで島民が島のすばらしさを再認識することができた。 HPの開設により島の魅力の発信や来島希望者等との交流促進 <p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係人口の創出と移住の促進 HP上に問合せフォームを設置し、来島を考えている人や移住を検討している人との交流、連絡窓口として活用 		

- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討

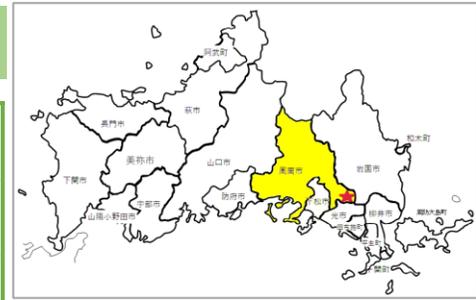


ポイント・工夫した点

壮年世代を中心とした活動を展開することにより、地域活動への参画を促し、次世代の担い手を育成

活用事業
令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

29 地域文化記録のデジタルアーカイブ化に向けた取組



実施主体	“ほっと三丘” ^{みつお} コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	周南市三丘 ^{みつお} 地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- 人口：1,459人、世帯数：709世帯、高齢化率：47.3%（令和4年3月31日現在）
- 周南市南東部に位置し、黒岩峡、三丘温泉（国民保健温泉地）等の観光資源のほか、県指定有形文化財である「徳修館」裏の「三丘ゆめ広場」は、SNS映えスポットとして訪れる人も多い。

取組の背景

- 取組内容**

【背景】

- 地域で取り組んできた地域活動や伝統行事等の写真、映像記録等を体系的に整理することで、地域の伝統行事の継承、地域情報の共有を図り、地域の歴史を後世に伝えることで住民の地域への愛着を深める。
- 地域内のコミュニティカフェで行われている地元農家の規格外野菜の販売において、需給バランスが取りにくい状況で、改善に向けた仕組みの構築が求められている。

【取組内容】
地域活動、伝統行事等の情報のデジタルアーカイブ化による集約と実施体制の構築

取組の成果

- 今後の展開**

【成果】

- 地域活動、伝統行事等の地域情報を集約し、専門家による指導を受けた。
- コロナ禍により活動回数が制限され、集約化した地域情報の発信方法に関する検討及び規格外野菜等の流通促進に向けた運用体制の構築については十分に行うことができず、課題が残った。

【今後の展開】

- 集約化した地域情報の発信方法に関する検討の実施
- 地域内における規格外野菜等の流通促進に向けた運用体制の確立

- 分野**
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討



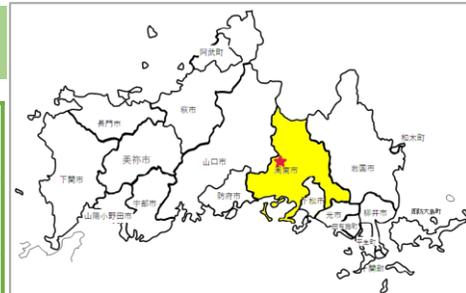
ポイント・工夫した点

専門家と協議を重ね、指導や助言を活かしてデジタルアーカイブ化を進めた。

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（専門家派遣事業）

30 和田空き家再生プロジェクト事業の取組



実施主体	わだ 和田の里づくり推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	わだ 周南市和田地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	・人口：1,140人、世帯数：597世帯、高齢化率：52.8%（令和4年3月31日現在） ・周南市の北西部に位置し、島地川ダム、高瀬湖、高瀬峡などを有するとともに、高瀬茶や林業の「和田丸太」などが貴重な地域資源として活用されている。		
取組の背景 ・ 取組内容	【背景】 地域外の人を訪れた際に、地域の多様な製品を提供する場や住民とのふれあいの場、情報を発信する場を創出し、都市住民との関りを深める交流を進め、交流人口・関係人口の増加を目指す。 【取組内容】 ・月1回開催してきたマルシェイベント「和っ彩マルシェ」を持続的に運営するため、地域内の空き家を活用して住民によるDIY等を行い、地域産品の販売や都市住民へ地域の魅力を発信する交流の場、また、地域住民をはじめ多様な人材が気軽に集い交流する場となるよう機能の充実を図った。 ・持続的な運営に向け、協議会内に新たな部会を組織し、協力体制を整備するなどの体制強化を図った。		
取組の成果 ・ 今後の展開	【成果】 耕作放棄地を活用して作った野菜をはじめとする地域産品の販売により、地域経済の循環を図るとともに、地域の魅力を発信する拠点としての機能を高め、交流事業を実施することで、都市住民の和田地域への理解を促進できた。 【今後の展開】 ・地域のサロンとして、交流や憩いの場となるよう利用度を高める。 ・和っ彩加工所「彩香」の開設、運営に向けた検討		

- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



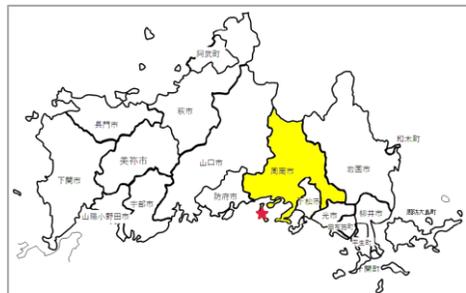
ポイント・工夫した点

和っ彩運営クラブを設置し、運営全般の指揮統括を明確にするるとともに、「和っ彩レディース」、「和っ彩マン」、「和っ彩サポーター」の各部局がそれぞれの特性を生かした役割を担い、持続可能な運営体制の構築を図った。

活用事業

令和2年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

31 大津島における生活支援サービスの創出に向けた取組



実施主体	おおづしま 大津島地区コミュニティ推進協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	おおづしま 周南市大津島地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：203人、世帯数：150世帯、高齢化率：79.8%（令和4年3月31日現在） 離島という条件不利地であるとともに、人口減少に加えて周南市内で最も高齢化が進展している。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化の進行に伴い、「安心、安全、身近な暮らしの維持・確保」や「地域を支える人材の確保」、「地域資源を活用した経済循環の仕組みづくり」が求められている。 課題解決に向けて地域住民による取組だけでなく、出身者や民間事業者、関係団体など、多様な主体の連携による地域運営の仕組みの構築が必要となっている。 <p>【取組内容】</p> <p>地域住民や出身者の会との連携により、生活サービスの提供や困りごとの相談・対応、地域活動の支援などを行う「生活支援サービスセンター：しまさぽ」を開設、運営</p>		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <p>住居の環境整備や生活の相談、困りごとへの対応などのサービスを試験的に提供しながら、持続可能な仕組みや実施体制の構築に取り組み、本格運営に向けた体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 島民1名、出身者2名の職員のうち、平日全てに最低1名が勤務する体制を整えることにより、住民がいつでも相談できる体制を構築 高齢者だけでは対応できない作業や困りごとに対応することにより、快適な住環境の確保を表現 <p>【今後の展開】</p> <p>関係機関と連携し、移動販売車での買い物のサポートや配食サービス、家事支援など、生活や福祉に関する対応ができる体制を更に強化することにより、より一層の生活サービスの充実を目指す。</p>		

- 分野**
- 生活機能の確保
 - 地域産業の振興
 - 交流福祉活動の促進
 - 生活交通の確保
 - 拠点の整備
 - 地域計画の検討

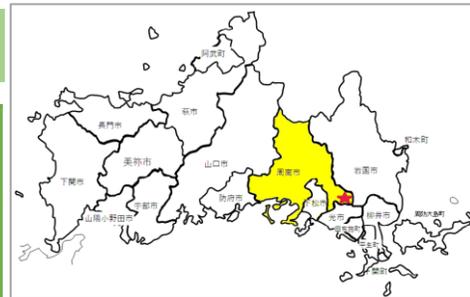


ポイント・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民だけでなく、出身者等の関係人口と連携することで持続可能な体制づくりにつなげている。 アンケート調査やヒアリング等によりニーズを把握している。
------------	---

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

32 耕作放棄地や空き家の活用に向けた取組



- 分野
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業
令和3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

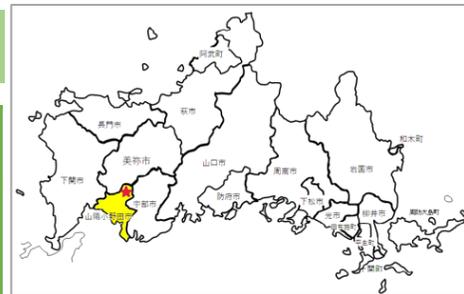
実施主体	“ほっと三丘”コミュニティ協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	周南市三丘地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> 人口：1,459人、世帯数：709世帯、高齢化率：47.3%（令和4年3月31日現在） 周南市南東部に位置し、黒岩峡、三丘温泉（国民保健温泉地）等の観光資源のほか、県指定有形文化財である「徳修館」裏の「三丘ゆめ広場」は、SNS映えスポットとして訪れる人も多い。 		
取組の背景	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業就業者の高齢化や担い手の減少により、耕作放棄地や荒廃農地が増加している。 空き家を移住希望者に貸し出すに当たり、空き家情報が一元的に管理されておらず、受入に活用できないことが問題となった。 空き家活用に向けて協力を得ていた地区内の工務店の廃業に伴い、活動が難しくなった。 		
取組内容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を活用したサツマイモ、カボチャ等の試験栽培とその収穫物を活用した6次産業化に向けた調査研究 空き家情報の集約、デジタル化を行い、クラウドで管理する仕組みを構築 協議会で空き家修繕を行う体制とするため、修繕技術の研修会を開催 		
取組の成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作物の試験栽培を行うことで、住民自らの手で耕作放棄地解消、維持管理を行うことができた。 サツマイモの加工品を試作し、試食会で高評価を得た。 空き家管理へのクラウドサービス導入に当たり、システムの有用性を確認できた。 研修会により技術習得だけでなく、若年層参画に向けた体制づくりにつながった。 		
今後の展開	<p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作物栽培作業の効率化、加工方法の改良や販路の確保を行う。 空き家管理システムの確立を目指すとともに、修繕技術の更なる習得を目指す。 		



ポイント・工夫した点

- 農地の維持管理を行いやすくするため、耕作が容易な作物を中心に試験栽培を行った。
- 紙媒体の空き家情報のデジタル化、データベース移行に向け、専門家の支援を受けながらシステム構築を行った。
- 修繕に関して、専門家のアドバイスやDIY経験者のコツ、ノウハウを作業を通じて実践的に学んだ。

33 川上地区将来計画（夢プラン）策定の取組



実施主体	かわかみ 川上地区自治連合会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	かわかみ 山陽小野田市川上地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- ・人口：92人、世帯数：41世帯、高齢化率：54%（令和4年10月31日現在）
- ・山陽小野田市の最北端で、美祢市との市境に位置する。
- ・地域の産業の中心は農業で、米、麦、カボチャ等が栽培されている。

取組の背景

取組内容

【背景】

- ・地元の有志、営農組合、連合自治会が一体となって地域づくりに取り組んでいるが、高齢化による人口減少に歯止めが利かず、担い手不足が深刻化している。
- ・何も対策を講じなければ、集落機能の維持が困難な状況となることが懸念されている。
- ・住民が主体となって地域の課題を地域で解決していくためには、「住民主体の地域づくり」が重要であり、その実現のために、地域住民自らが話し合い等を通じて、自主的、主体的に地域の将来像や具体的な目標、行動計画を立てる必要性を認識

【取組内容】

- ・専門家の講義等により、地域の将来計画である「夢プラン」の作成に向けた知識や課題等の共有
- ・地域の総意になる夢プランとするための地域住民全体（12歳以上）を対象にしたアンケートの実施

取組の成果

今後の展開

【成果】

- ・地域住民アンケート結果を反映した夢プランを策定
- ・地域内での地域活動参加者が増加した。
- ・世代交代の必要性を認識する機会となった。

【今後の展開】

- ・策定した夢プランの精査
- ・実施計画型の夢プランの策定（現段階では基本構想型）

- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



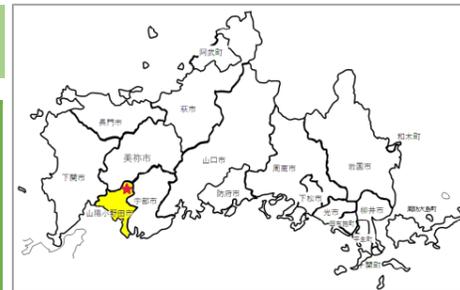
ポイント・工夫した点

- ・策定のための協議やアンケートの実施後、協議内容や結果を地域内で供覧することで地域活動の周知を図った。
- ・将来計画を策定に当たり、現在のリーダーの世代だけでなく、一つ若い世代の住民を実行部隊として位置付けた。

活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（専門派遣事業）

34 地域課題をICT活用によって解決する取組



実施主体	かわかみ 川上地域ICT活用検討協議会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	かわかみ 山陽小野田市川上地域	地域の夢プラン	有・無

地域の概要

- ・人口：92人、世帯数：41世帯、高齢化率：54%（令和4年10月31日現在）
- ・山陽小野田市の最北端で、美祢市との市境に位置する。
- ・地域の産業の中心は農業で、米、麦、カボチャ等が栽培されている。

取組の背景

【背景】

- ・光回線が届いていないなど、地域の通信環境が脆弱
- ・社会のデジタル化が進む中、高齢者が多い川上地域ではデジタル化の流れに対応できないことが危惧された。
- ・「ゆめ市場川上」と「ゆめ農房川上」を地域づくりの軸に捉え、集落機能の向上を図るため、ICTを活用した地域の課題解決に取り組む必要性を認識

取組内容

【取組内容】

- ・山陽小野田市立山口東京理科大学の学生と連携し、地域課題を抽出し、ICTを活用した課題解決の手法を検討
- ・学生による地域の視察、地域イベントでの住民等への調査などフィールドワークの実施
- ・学生からeスポーツによる健康維持と交流促進、SNSによる直売施設等の情報発信の実施を提案、大学生と地域住民が連携して実施（R4継続実施）

取組の成果

【成果】

- ・大学生がフィールドワークで訪れるなど地域の関係人口拡大の契機となった。
- ・地域の状況を調査した結果に基づき、大学から地域のニーズに沿ったICT活用を提案された。

今後の展開

【今後の展開】

- ・eスポーツやSNS活用の実証、地域での活用を定着させる。
- ・学生の支援なしで取り組むための活用方法のマニュアル作成

- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



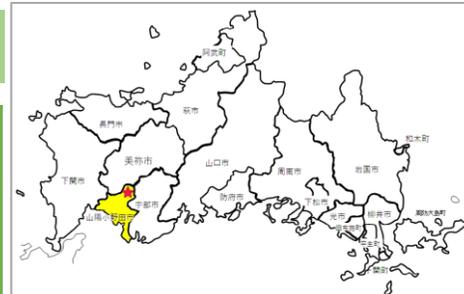
ポイント・工夫した点

- ・地域が主体的に継続して取り組むことができるよう引継ぎの期間を設けた。
- ・高齢者に馴染みにくいICT分野を孫世代の大学生とともに取り組むことで苦手意識を払拭しつつ、世代間交流による地域活性化を図った。

活用事業

令和3年度
やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（元気生活圏元気創出応援事業）

35 地域内での6次産業化促進の取組



- 分野**
- ① 生活機能の確保
 - ② 地域産業の振興
 - ③ 交流福祉活動の促進
 - ④ 生活交通の確保
 - ⑤ 拠点の整備
 - ⑥ 地域計画の検討



活用事業

令和2、3年度
やまぐち元気生活圏活力
創出事業

実施主体	かわかみ 川上地区自治連合会	元気生活圏づくり推進方針	有・無
取組地域	かわかみ 山陽小野田市川上地域	地域の夢プラン	有・無
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：92人、世帯数：41世帯、高齢化率：54%（令和4年10月31日現在） ・山陽小野田市の最北端で、美祢市との市境に位置する。 ・地域の産業の中心は農業で、米、麦、カボチャ等が栽培されている。 		
取組の背景 ・ 取組内容	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展に伴い、地域の中心産業である農業の衰退が危惧されている。 ・コロナ禍で地域内のイベント開催が制限され、地域間のコミュニケーションが減少した。 ・農産加工所の整備に伴い、運営事業体を発足、年間を通じた地域の農産物の利活用の可能性が広がった。 ・農産加工所の活動により、特に高齢者や女性の活動の活性化が図られ、住民主体の地域づくり推進に向けた気運が出てきた。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農産物を原材料とする加工品の開発、加工場の年間供給体制の構築 ・試作品の商品化に向け、地域住民や直売施設のイベント来訪者を対象に試食、意見収集 		
取組の成果 ・ 今後の展開	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化（生産：川上地区営農組合、加工：ゆめ農房川上、販売：ゆめ市場川上）の基礎の確立 ・地域住民の活性化 ・加工場を起点とした交流の促進 <p>【今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の商品のブランディング ・販路拡大に向け、地域外との連携体制の構築、連携の促進 		

ポイント・工夫した点

- ・地域が継続的に取り組むことができるように段階を踏みながら、定期販売を行った。
- ・定期的な出荷場所だけでなく、外部のイベント等に出展することで、評価や課題を抽出